

2021年度活動概要

バイリンガリズム研究会

バイリンガリズム研究は1996年設立以来、CALPやPISA型リテラシーの発達や育成について研究し、日本の内外におけるバイリンガル教育について調査を行っている。

2021年度は、これまでに小学校、中学校、高等学校、そして大学レベルでの言語教育はどうあるべきかをバイリンガリズムの視点から検討してきたことをさらに発展させ、Translanguagingの観点から研究会で理解を深めた。

本年度の研究会は2月に1回のペースでオンラインで行った。最近注目されている概念であるTranslanguagingについて、*Bilingual Education in the 21st Century* (O. Garcia, 2009)の輪読を進め、各章ごとに丁寧に輪読した。基礎的理論を社会言語学観点、バイリンガリズムの観点などから学んだ。この間、メンバーからのTranslanguagingに関する研究発表を取り入れながら議論し、さらに、これまでの研究会での発表やお互いの研究を取り入れたディスカッションをしながら理解を深めた。

1月には、Translanguaging研究の第一人者である加納なおみ先生をお招きし、「トランス・ランゲージングの意味と役割—言語教育の潮流と日本の文脈から考える—」と題する理論から実践に関する幅広いご講演を、研究会補助金等を利用してオンラインで実施していただいた。盛況のうちに開催され、研究会内のその後の意見交換などの礎となった。

来年度の研究会では、日本の学校教育や大学教育への実践へ議論を進め、具体的な授業設計や授業実践、そして評価に進めたいと考えている。

活動の成果を以下のように発表した。

バイリンガリズム研究会

Translanguagingの英語教育を考える—バイリンガリズム理論における言語と思考の関係性から—

The 60th JACET International Convention (Online, 2021)

JACET Hours 8月27日(金) 9:00-10:00

また、2022年3月17日(木)開催のJACET英語教育セミナーにて研究会活動紹介を行った。

研究会のウェブを運営し情報発信している。

<https://www.clas.kitasato-u.ac.jp/faculty/jacet-bilingualism>